

宮古島で見つかったサキシマハブ

【宮古島でサキシマハブ捕獲】

今年4月19日に宮古島でサキシマハブが発見、捕獲されました。見つかったサキシマハブは、全長44cm、体重16gと小さく、生後半年もしくは1年半と思われる（図1）。サキシマハブは八重山諸島に生息する毒ヘビで、本来は宮古島には生息していません。宮古島へは、おそらく人為的な要因によって侵入したと考えられます。港に隣接する公園内で捕獲されたことから、船の荷物に紛れて持ち込まれた可能性があります。侵入経路や時期など詳しいことはわかっていません。



図1. 宮古島で捕獲されたサキシマハブ。

【生息確認調査はじまる】

夜行性のヘビは特に人目につきにくく、すぐ近くに棲んでいてもほとんどが人に気付かれない生き物です。恩納村のタイワンハブのように、1匹見つかった後で詳しく調査してみたら、もう簡単に駆除できない程に増えていたという例もあります。一般に外来生物は、一度その地域に定着して増えてしまうと、完全駆除することが非常に難しく、できるだけ早い段階で定着の有無を確認する必要があります。当研究所と宮古福祉保健所、宮古島市は、サキシマハブ発見場所付近を中心にハブ捕獲器（罠）30台を設置してサキシマハブが定着しているかどうか確認するための調査を開始しました。調査は4ヶ月間行う予定です。

【沖縄本島での外来ヘビの問題】

沖縄本島では、台湾や大陸原産のタイワンハブ、サキシマハブ、台湾原産の無毒のタイワンスジオが定着しています（図2）。特にタイワンハブは高密度化と分布域拡大が現在も急速に進行していて、

当研究所でモデル実験による駆除手法の研究を行っています。

定着が確認されているこれら3種以外にも、近年では年に数件程度ではありますがペット由来と思われる外来ヘビが捕獲されています（図3）。ペット由来なので大量に野に放たれたわけではなく、定着の可能性は低いと思われるのですが、外来生物の性質上、早期駆除が重要です。

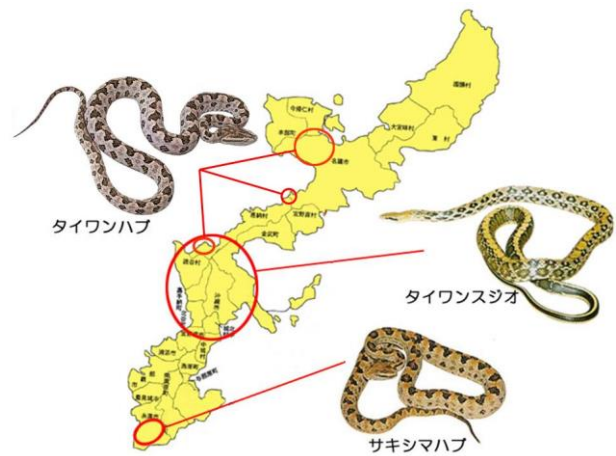


図2. 沖縄本島に定着している外来ヘビの分布。



図3. 那覇市で捕獲されたコーンスネーク。

【宮古島のサキシマハブから学ぶこと】

物流が盛んな現代、ある地で本来なら生息するはずのない生き物が見つかるという事例は、今後も起こることだと思います。荷物に紛れないように努力することや、ペットが逃げ出さないように厳重に管理することが必要なのは当然ですが、多くの方が周囲に生息する生き物や自然に関心を持つことも大切です。そして重要なのが、種類をきちんと同定することです。見慣れないヘビや種類がよくわからないヘビを見つけた場合は、当研究所まで問い合わせてください（画像を添付したメールで結構です）。【衛生科学班】